



こんにちは

村田 けい子 です

2020.7.17
No261

みなさんのご意見・ご要望をお寄せ下さい。フェイスブックやっています。

移動事務所 090-9144-8534

発行/日本共産党立科町議会議員 村田桂子 立科町塩沢1483 ☎0267 (56) 2868

事業系ごみ処理方法の変更について説明会開かれる 7/7~8日

中央公民館、白樺高原総合観光センターを会場に3回説明会が開かれその報告がありました。

(98名が参加。338事業者にご案内を出し、およそ3割弱の参加。)

議会では活発な質疑が行われました。質疑を通して明らかになったことをお知らせします。

Q欠席者への対応・・・今回の内容をお知らせする。再度説明会を考える。

Q事業系のゴミが年々増え続けているが、それは「自前で運搬処理している事業者」によるもの。「その方たちにこそ減量化のお願いをするべきではないか」との問いに「対応する」との答え。

Q何のために変更するのか。・・・①佐久平クリーンセンターへの搬入計画を上回るごみ量が現在あり一層の減量化が必要。②運搬費や人件費が大幅に増えることから、この際事業系は自分たちで運搬してもらうことにする。(本来廃棄物処理法には、「事業者の責任で」と明記されていたが、これまでは町が便宜を図っていた)

Q「補助金の案内」とは何か・・・生ごみ処理機への導入補助制度

Qコンポストの無料配布など思い切った施策が必要ではないか。…今後検討。

Q現在の収集でも一般の家庭系のゴミ量は減り続けているが、事業系が抜けることでさらなる減量となる。およそどのくらいと見込んでいるか。…▲200トン(前年のごみ量実績から推計だが、コロナ禍の特殊性を考えると増える可能性も。パッカー車一台2トン積載。およそ100台分/年間の減量=事業系として収集)

Q 民間へ収集運搬依頼の時、経費はどれほどか? これまでの実績から収集車1台当たり4~5万円/一日(7社の聞き取り) 経費がかかるとのこと。

◎実際には山地区、里地区でそれぞれ1台のパッカー車が必要となると
例えば、事業者数は山地区 91戸、里地区 247戸。

(通知を出した事業所数、自前で搬出している事業所も含む)



・実際には、ごみ収集に参加する事業所数により、1戸あたりの経費は変動する。

・ごみ量による負担を考慮すれば個人負担は変わる。(袋の数や重さなど)

・山と里で処理場までの距離は違うが、運搬件数に開きがあり、一日かかるという点で同様に扱うこととする。

Q、運搬経費への補助が必要ではないか?
…今後の検討

Q、「加入組織により取りまとめをお願いしたい」の「組織」はなにか?

・・・商工会・観光協会・食品衛生協会
今後同会と懇談し取りまとめをお願いしたい。

Qスケジュールはどのように?

・・・検討中、次回(来月)までに示す。

町の説明会では資料が不足し説得力に乏しかったのではないかと。多くの戸惑い、怒りが表明されました。事業者の皆さんが自前で運搬処理できるようになるまでの資料提供や取りまとめなど、丁寧な対応を求めています。



も登場
スコップ三味線
時間
れ豊かな
縁に囲ま

今週のパチリ

「優しい時間」というペンションでのコンサート、オーナー夫人はピアニスト、ゲストとしてオランダで活躍するバイオリン奏者が演奏。最後におまけで登場したのがコレ。なんとスコップ三味線。ピアノの演奏に合わせて、スコップを打ちたたたく。バチはお好み焼きのへら。ほっこりとした笑いが広がりました。

索道事業 指定管理者内定

選定後、「地元企業と新会社設立を表明」...法律上の問題はないか。

町長「A社が責任をもって」

14日の全員協議会の報告で、白樺高原国際スキー場しらかば2 in 1 スキー場、御泉水自然園の管理運営を任せる指定管理者が内定したと報告を受けました。役場の4課長と商工会、観光協会、当該区長からなる選定委員会（委員長小平副町長 8名）の答申を受けてA社（本社佐久市）に選定（7月3日）。7月に開催予定の臨時会で決定の予定。

これまでに2社の応募があり、様々な観点での審査があり、総合得点A社842点、B社767点でA社が選定されました。

「決め手になったのは？」の問いに、「地域連携、財務体質」と答えています。会議終了後に評価項目と点数の一覧表が公表されました。

質疑の中でA社は内定後、「地元企業を入れて、新会社を設立し運営にあたる」ことを、今回初めて公表したが、A社が監理会社として代表して運営ということになると、町がそれぞれの業者と委託する形とどこが違うのか、大きな設備投資や修繕は町が行うとすると、町の財産を企業のもうけに差し出すことにならないか、疑問が残ります。

議会では選定委員会の議事録の公開を求めましたが、最初は「非公開」を主張した町は「町民に説明がつかないではないか」の議員の指摘に「要約筆記を臨時議会までには示す」としました。

Q、雇用の継続はどうか？…募集要項の仕様書に雇用継続をうたっているの、「今後新会社に尊重してもらうよう求めていく」との回答。

継続に向けた必死の努力こそ、道を開く！

存続に向け声をあげましょう！

「佐久地域食肉流通センターの今後のあり方について」の報告

広域連合長会議（11市町村）で町長は異議申し立てるも「譲渡の方向で」

議会には食肉公社の会議資料だけが示され、構成市町村の農家数、出荷数、ここ数年の立科町の出荷頭数や農家数など全体の中の位置づけが不明です。基礎的資料は全く示されず、昨年の豚熱、今年のコロナ禍での異例の出荷頭数だけを示し「稼働率が低い」ことの数値だけを示し「譲渡ありき」の印象操作を行っています。

赤字運営といいますが、豚熱やコロナなど、どこでも経営難は共通です。はじめて出てきた話であり、松本や長野のと畜場に出荷するようになれば、運搬費が大きく跳ね上がり、経営上に大きな支障が出ることは明らかです。

● 現在の食肉センターの運営で、改善できることはないのか、他県からの処理依頼が激減したというが、回復の手立てはないのか、など継続に向けたどんな努力をしたのかが明らかにはなりませんでした。

町の畜産農家は10戸。佐久6戸、東御市2戸に比べ断然トップの状況。「蓼科牛」をブランドとして売り出し発展させるという立場からの「断固としてセンターを存続させる」の覚悟が足りません。

町は「広域で」と足並みをそろえることを気にしますが、町が「蓼科牛」を守るという気概を示すことから、存続への道は開けると思えます。

● TPP11が発効し、安いアメリカ産、オーストラリア産がさらに持ち込まれる中で、国産を維持するのは国や県、町の支援がなければ成り立ちません。自由競争に任せてしまえば国産は立ち行きません。

今回のコロナ騒ぎで自国の食料自給率を上げることの重要性が広く指摘されたところです。

「蓼科」の名を冠したブランドを守る覚悟が必要です。



エレベーター設置工事始まる。

いよいよ工事が始まりました。11人乗り。浦野建設 3200万円。車いすが入れるようドアは2枚戸、中央開きで80cmまで開きます。

10月末が完成予定。楽しみですね。1階から4階まで。



役場玄関